

第2セッション・討論  
(座長:井上業務担当部長)



第1セッション・討論  
(座長:佐藤組織研修担当部長)



ご来賓のみなさま  
 全日本鉄道労働組合総連合会  
 榎本執行委員長  
 八幡政策部長  
 中村執行副委員長  
 鉄道総合技術研究所労働組合  
 本部長執行副委員長



発表機関のみなさんへ  
記念品贈呈



# 「職場からの挑戦」で 安全・健康・ゆとり・働きがい創造しよう!

加藤書記長 まとめ(要旨)

私たちの雇用と利益を守り、「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある職場を創りだすために、どのように団結し、組織的に知恵を出し合い、政策提言などを掲げて、要求などを表現していくのかの課題に対して、私たち自身が切り拓いていかなければなりません!

## 第1セッション 職場現実を出発点とした安全確立に向けて

いわき運輸区分会とバス小諸分会の提言を聞いて、台風19号のことが頭によぎりました。台風15号に続き台風19号は、相当な苦労を現場は強いられました。一方、多くの問題も発生しています。例えば、避難所に避難した社員に対して安否確認と聞き取り、出勤が命じられたり、次勤務を確認されたりしています。皆さんの管理は、極めて「命」に関わる問題です。常磐線全面開通における問題など、JR総連と連携を取り、推薦議員懇話会にも投げかけながら、出来ることについて検討していきたいと考えます。

盛岡新幹線車両センター青森派出所分会からの提言は、新設では困難という現況を踏まえ、現行設備の有効活用によって現場対応力を向上させるというもので、職場現実を出発点としているものです。

八王子地本からは、「指導員について」提起されました。「新たなジョブローテーションの実施について」の団体交渉で、組合要求としては指導担当をジョブローテーションから外すことを要求しましたが、実現しませんでした。職場の小さな変化に気が付き、エラーになる前に防ぐことができるのも、指導担当の大きな役割です。このレベルをいかに職場

で保つのが課題であり、私たちが今後、ジョブローテーションの実施後、職場のたたかいていくためには、専門的に職場全体を把握出来るリーダーが必要です。「グループ安全計画2023」が策定されていますが、効率化、生産性の向上を目指すJR東日本の経営姿勢に、職場現実を踏まえ、真っ正面から立ち向かっていかなければなりません。

安全問題については、現場で発生している事故や事象などを、一つひとつ捉え直し、原因究明や背後要因などを確定していかなければ、真の原因究明や、真の対策は打ち立てられません。改めて、職場からの原因究明委員会のたたかいを展開し、職場と共にたたかいていきます。

横浜駅分会からは、駅には未だに人を頼りたがるお客さまが多い現実があり、トラブルがあつたときも対応出来る「駅の警備員を育成」するために、本体と同等な教育が出来る仕組みづくりについて、提言がありました。

## 第2セッション 「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実現するための検証運動を強化

大宮駅分会からは、駅で抱える課題を「安全・働きがい」の観点で、組合員の声を基に、車いすのお客さま等が、単独でスムーズに降り降ろしていただけるように、ホームドアの導入に合わせてホームと電車床面との段

差・隙間の縮小に取り組むことが提言されてきました。この提言は、元グリーンスタッフの仲間を借りながら提言に結びつけてきたことでもあり、職場の組合員との議論が目に浮かび、新生JR東労組の運動を職場から展開した観点を教訓化していきます。

東京車掌区分会の提言、発言では、約2年かけた成田エクスプレスの検証、台風等の異常時についても検証が積み重ねられ、系統を超えた提言へと高めています。JR他社の先進事例や技術革新についても調査し、オリピック・パラリンピック、その先の訪日6000万人時代への対策と、未来の鉄道のあるべき姿が、職場から提言されたことについて本部として学びていきます。

オリピック・パラリンピックが目前に迫ってきています。安全・安定輸送をつくり出すためには、そこで働く者の安心・安定した精神状況、健康が守られる環境が確保されることが必要です。要求実現、課題克服をしていくことを第一として、申し入れや安全衛生委員会などで、解決に向けた努力を継続して行っています。

幕張車両センター分会と京葉車両センター分会から、グループ会社も含めた検修職場の職場像が提言されました。人間が行う作業は必ず残ります。車両メンテナンスの大きな課題は車両メンテナンスの技術力を残し、継承していくことにあると思います。JR東労組版の「ミライの車両S&E構創」を練り上げるため、離れた仲間を含め、各職場での活発な議論を要請します。

仙台地本から、ワンマン列車の信用乗車方式の導入における問題や、地方ワンマン線区は、労働環境を可能な限り機械に置き換えて整えなければ、運転士だけの労働強化になると述べられていました。ワンマンの施策を実

施していく上では、輸送品質の向上を目指すことが前提であり、現在実施しているワンマン運転の課題を解消していく必要があると考えています。「安全・健康・ゆとり・働きがい」が担保され、組合員が納得できる施策としていくために、鋭意、議論を行っていきます。

能代支部・東能代運輸区分会・大館運輸区分会の提言がありました。東北地方の人口が2040年には3割がいないと言われています。一般的に、人口減少が進めば線路が廃止され、鉄道ではない輸送モードへ切り替えられていくことが予測されます。JR東日本も早い段階で手を打っていかねばなりません。

来年のダイヤ改正で大館運輸区、青森運輸区が廃止となり、乗務員基地再編成が行われます。行路が弘前運輸区に集中することから、職場を基礎としながら、私たちの働きやすい職場をつくり出すための提言を、繰り返し訴えていくことが重要だと認識しました。

JR総連に結集する仲間の雇用や利益、労働条件を如何にして守っていくかが重要であり、政策課題の実現に向けて議論が行われています。今回の台風19号などの経験や、新潟地本提言、2日間の発表・討論を経て、鉄道産業の労働組合として、国に対して、災害に対する抜本的対策提言を示しても良いのではないかと感じました。

矢継ぎ早な施策に対して、職場活動を通じて検証運動をどれだけつくり出せるかが勝負です。「働き方改革」は「働き方改革」で、資本の論理であることが見えてきます。これに対して、労働の論理は私たちJR東労組の必要性が生み出さなくてはなりません。

「2019政策フォーラム」は、改めて、現場第一主義、人間第一主義に基づき、抵抗とヒューマニズムを原点に据えて、「職場からの挑戦」を実践していくことを大前提に、真の働き方改革などを、私たちから提言していく第一歩となりました。

**組織強化・拡大を推し進め  
全地本・全部会の力で提言を実現させよう!**

